

(IV-63) **公園設計におけるユニバーサル・デザインをめぐって**
～横浜市瀬谷区本郷公園のワークショップから～

関東学院大学工学部土木工学科	学生会員	千々松 淳
関東学院大学工学部土木工学科		大崎 智樹
関東学院大学工学部土木工学科		赤堀 貴寛
関東学院大学工学部土木工学科	正会員	昌子 住江

1. ユニバーサル・デザインとは？

ユニバーサル・デザインとは、出来る限り最大限、すべての人に利用可能であるように製品、建物、空間をデザインすることを意味する。つまり、以前のように、健常者の中に障害者を引き上げるのではなく、高齢者・障害者・健常者の区別をせず、あらゆる人々が共にくらしやすい環境を、世代を超えてデザインする事である。ノースカロライナ大学のデザイン学部ユニバーサル・デザインセンターでは、ユニバーサル・デザイン7原則として、以下のように具体的に示している。

- 1) 誰でも公平に便利に使用できること。
- 2) 使う上で自由度が高いこと。
- 3) 簡単で直感的にわかる使用方法となってること。
- 4) 必要な情報がすぐ理解できること。
- 5) うっかりエラーや危険につながらないデザインであること。
- 6) 無理な姿勢、強い力なしで楽に使用できること。
- 7) 接近して使えるような寸法、空間となっていること。

2. 横浜における公園づくりとユニバーサル・デザイン

(1) 横浜市の方針

横浜市では、少子・高齢化の進展している社会状況の中で、高齢者や子供達、障害のある人もない人も、誰もが安心して活動し、生活を楽しめるまちづくり・モノづくりを目指している。21世紀の横浜をこのようなまちにするために築く重要なテーマの一つとして「ユニバーサル・デザイン」を今後の施設づくりの方針としている。それには、行政だけでなく、市民、事業者の協力・連帯が重要であるとしている。

(2) 瀬谷区本郷公園のユニバーサル・デザインとワークショップ

「福祉のまちづくり条例」(平成 10・3・20 施行)に伴い、横浜市では瀬谷区と神奈川区を福祉のまちづくりモデル地区に指定した。推進事業の一つとして、横浜市瀬谷区本郷公園をモデルに「誰もが利用しやすい公園とは、どんな公園なのだろう」をテーマに、ワークショップを行った。

◇ワークショップ方式による設計の試み

行政が一方的に設計するのではなく、地域住民、利用者、専門家、興味のある人、コンセプトにあつた(障害者、高齢者、その他)が、縦割り社会をなくし平等に意見しあい、それらの意見を設計の時点から取り入れていく。

市 民＝瀬谷区内の身体障害者団体・町内会・学校など地元組織・横浜市身体障害者
団体連合会・福祉のまちづくりフォーラムその後の集い・学生。

市役所＝福祉局福祉のまちづくり課・緑政局計画課/建設課・瀬谷区役所区政推進課

キーワード：公園 ユニバーサル・デザイン ワークショップ

連絡先：〒236-8501 横浜市金沢区六浦町 4834 TEL 045-786-7753 FAX 045-786-7754

◇横浜市瀬谷区本郷公園（仮称）＝スポーツレクリエーション公園（総合公園）

場所：横浜市瀬谷区本郷1丁目 面積：5.6ha 平成15年完成予定

施設：野球場・テニスコート・広場・多目的グラウンド

◇経過

8月11日から12月22日まで計5回のワークショップを以下の順序で行った。

第1回：ワークショップ参加者同士が、互いに知り合い、互いの行動特性を理解して、
瀬谷本郷公園を「こんな公園にしたい」と言う希望で話し合う。

第2回：現在オープンしているスポ・レク公園（旭区今川公園・平成4年オープン）を見学し、
問題点や課題、感想を話し合う。

第3回：横浜ラポール（障害者スポーツ文化センター）の職員の方から障害者スポーツ現状と
そのあり方などを学び、公園施設がどうあるべきか話し合う。

第4回：今までの意見「人にやさしい公園とは、こんな公園」の整理作業を進める。

・ 私が夢見ているのは、○○○○○のような本郷公園です。

・ 私の望んでいるのは、○○○○○ができる本郷公園です。

第5回：前4回のまとめを行いアイディアマップをつくる。

3. ワークショップから見えるこれからの公園（総合公園）

ワークショップでは、もっぱらハード面に関する話し合いが中心に進められた。ソフト面や自然面については、必要な範囲で補足した。

★ハード面：駅などからアクセスしやすい事/勾配を緩くする/案内表示を簡単にわかりやすく（避難経路）/車止めをなくす（ルールを守ることが必要）/傷害者専用駐車場を整備/段差を設けない/舗装面は柔らかい舗装/全体を丸まったデザイン/排水溝などの穴をなくす/障害者専用トイレ設置/手すりの設置/点じブロックをひく（それに相当するもの）/夜間の街頭を明るく（地域住民に迷惑にならない程度）/ボタン、スイッチ類の高さを考慮する

★ソフト面：公園に限らず建物や都市空間をモノとしてすべてユニバーサルデザインにする事は、絶対に果たせない事である。モノの形で解決できる事には限界があり、そうした限界を補うには、サービスや心遣いが必要である。よって、これらの方法を学ぶ教育がボランティアや公園管理に携わる人々が不可欠である。

★緑・自然環境：水、風、光、音、香り、などの五感を楽しめる公園にすると共に、ユーザー自身が手を加えられる花壇などを設置（精神治療の効果が大きい）する。

4. まとめ

当事者の自己決定権を行使でき、障害を理由に特定の場所に囲い込むような「保護」をしない公園が本来の意味でのユニバーサルな公園である。公園の設計・運営を円滑に進めていくには、ユニバーサル・デザイン7原則だけでなく、「ボランティアの募集・育成に力をいれる事」「地域住民への配慮・理解・協力を大切にする事」など、ソフト面の重要性が大きくなっていく。

ユニバーサル・デザイン広めるには、身近な所から順々に取り組んで行ける、最低限のユニバーサル・デザイン基準（段差を無くす、手すりを各所に設置から）を作っていかななくてはならない。その上で、既に完成している公園にも基準を少しずつ広め、ユニバーサル・デザインをより身近なものにして行かななくてはならない。そして、私たち健常者の障害者に対する接し方を変え、「共に生きる生活環境」を作り上げて行こうとする姿勢に変えて行かなければならない。また、この姿勢は公園だけでなくこれからの社会全般に必要とされる理念である。

謝辞：横浜市役所福祉課、瀬谷区役所、多くの障害者団体の方々、貴重な意見をいただきありがとうございました。